



会報

東京都中学校長会

平成30年11月13日

第398号

発行 東京都中学校長会
会長 小澤 雅人
〒105 港区西新橋1-22-13
-0003 全日本中学校長会館202号
電話 03 (3504) 8705
FAX 03 (3504) 8706

〈巻頭言〉

教師という専門職で

副会長 片倉 元次
(新宿区立新宿中学校長)

教育実習生への校長講話で、まず私は、教師と警察官にはなりたくないと思っていたこと、教師ドラマが嫌いなこと、教師は人に自分ができないことをやれという重たい仕事であることを伝えている。学生時代からその思いは変わらないが、そんな私が教師になってから大きな影響を受けた二人の偉大な教育者のことばを伝えて校長講話に代えることにしている。

学生時代に、斎藤喜博(1911～1981)の島小時代のドキュメンタリーを見て、迫力あるすごい人だなと思った。後に彼が偉大な教育実践者だと知ったころには、もう彼は亡くなっていた。斎藤は、『授業入門(未来をつくる教師)』で「良い教師の条件」として、「頭の良い先生」「育ちの良い先生」「美人の先生」をあげ、それに加えて「高い知識と教師としての高い技術をもつこと」をあげている。「頭の良い先生」とは、自分の考えに固執するのではなく、読書をし勉強をして、誰からでも何からでも学び、物事を正しく理解し判断できる教師であること。「育ちの良い教師」とは、ひねくれた心とか意地悪な心とかを持たず、素直な教師であること。そして「頭がよく、育ちがよく、すぐれた実践をする教師は、みんな美人になるものだ」という。授業を創造する教師は、教材や子どもから否定され、ゆさぶられ、変革されて、新しい自分を発見し、自分の世界をつくり、自分の実践をもつわけで、その教師は「強い自我を持つ」美人の先生になる。「真に子どもを育てる教師は、いつでも明るい気持ちと健康な温かい笑いの出せる人間でないといけない」と言っている。

高田典衛(1915～1993)先生の最終講義を見に行くと体育科の先輩に言われて、渋々体育館に行

くと、やさしそうなおじいさんがタンバリンをたたきながら学生と楽しそうに運動をしていた。その人が体育授業評価の先駆者であり、「高田四原則」で有名な人だったと気付いたのは、二校目の校長に「部活ばかりでなく教科の勉強をしろ」と言われ



た頃だった。高田は、『体育授業入門』で「私は機会あるごとに子どもに尋ねてみた、そして子どもがよい授業というのは、次の4つの条件が含まれた場合をいうことが判っていたのである。

(1) 快適な運動(精一杯運動させてくれる授業)(2) 技能の伸長(ワザや力を伸ばしてくれる授業)(3) 明るい交友(友人と仲良くさせてくれる授業)(4) 新しい発見(新しい発見をさせてくれた授業、この4条件は、小学校の授業研究を通して解っていったものであった。しかしその後、中学生や高校生の授業についても、これが共通することが解ってきた。…」と述べている。

いじめや学級崩壊、保護者の苦情などブラックな職場で「先生になるのが不安だ」という学生が増えているという。しかし、次の社会をつくる子どもに伴走し、子どものために「よい実践」を求め続ける「教師という専門職」の魅力は計り知れない。そうした専門家集団を率いる校長として、意識を高くもつために、東京都中学校長会の会員の皆様とのつながりを大切にしていきたい。

9・10月 地区代表者連絡会 報告

■9月 地区代表者連絡会報告

日時 平成30年9月13日(木) 15時～17時

場所 新宿コズミックセンター 5階 大研修室

1 会長あいさつ

- 平成31年度人事異動に向けた動きについて
- 「働き方改革」に関する動きについて
- 都中体連事務局の存続に関する課題について
- 教育庁・政党への「平成31年度 中学校教育関係要望書」の提出について
- 教育長会への「平成31年度 東京都中学校長会 会費の予算化について」の提出について
- 各部・委員会からのアンケートへの協力について
- 退職校長会の会則一部変更について

2 行政説明

- 「今後のオリンピック・パラリンピック教育の推進について」
東京都教育庁指導部指導企画課オリンピック・パラリンピック教育推進担当課長
河野 浩二 様

3 連絡・報告事項

- 役員会より
第1回都教育庁指導部と本会との教育連絡会について
- 各部・各委員会より
 - 【会計部】
 - ・福利厚生積立金、退職予定者調査について
 - 【教育対策部】
 - ・H31年度中学校教育関係要望書について
 - 【研究部】
 - ・アンケート調査について
 - 【生徒指導部】
 - ・9月14日(金)第2回研修会について
 - ・生徒指導部アンケート調査について
 - 【人権教育推進委員会】
 - ＊連絡・報告事項なし
 - 【進路対策委員会】
 - ・平成31年度都立高校入学者選抜について
日本語指導が必要な生徒への対応変更
在京外国人生徒の事前応募資格確認
 - ・10月5日(金)施設見学会について
 - 【修学旅行対策委員会】
 - ・H30年度の修学旅行全般について
 - 【選挙管理委員会】
 - ＊連絡・報告事項なし
 - 【都中学校体育連盟】
 - ・H31年度からの運営について
 - 【全日本中学校長会】
 - ・文科省のH31年度概算要求について

4 事務局より

- H31年度の主な行事について
- 古岡奨学会等について

■10月 地区代表者連絡会報告

日時 平成30年10月11日(木) 15時～17時

場所 新宿コズミックセンター 5階 大研修室

1 会長あいさつ

- 第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取(米子)大会について
- 校長・教育管理職選考一次選考結果について
- オリンピック・パラリンピック東京大会開催におけるご理解・ご協力について
- 東京都中体連加盟費等について
- 今年度の修学旅行実施における課題について
- 東京都中学校長会研究大会への出席、対応について

2 行政説明

- 「平成31年度 都立高等学校入学者選抜・他について」
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課入学者選抜担当 統括指導主事 久保田 聡 様
- 「SOSの出し方に関する指導について」
東京都教育庁指導部指導企画課生徒指導担当 主任指導主事 渡辺 浩一 様

3 連絡・報告事項

- 各部・各委員会より
 - 【総務部】
 - ・平成30年度都中学校長会・都公立高等学校長協会役員等連絡会報告について
 - 【会計部】
 - ・本日の福利厚生積立金の徴収、退職予定者調査の予定について
 - 【教育対策部】
 - ・平成31年度教育関係要望書提出について
 - 【研究部】
 - ・東京都中学校長会研究大会について
 - 【生徒指導部】
 - ・第3回研修会について
 - 【人権教育推進委員会】
 - ・11月26日の研修会について
 - 【進路対策委員会】
 - ・10/18 第6回進路対策部会
 - 【修学旅行対策委員会】
 - ・11/21に抽選
 - ・自然災害対応型保険の見直しについて
 - 【全日本中学校長会】
 - ・全日中の取り組みについて

4 事務局より

- 平成31年度東京都中学校長会年間行事予定(第1次案)
- 平成31年度全日本中学校長会群馬大会参加割り当て表(第1次案)

各部・委員会報告

平成30年度 生徒指導部 活動概要

生徒指導部長 臼倉 孝弘
(葛飾区立常盤中学校長)

1 活動の重点

- (1) 「問題行動等の現状と課題」や「新たな生徒指導上の課題とその対策」等についての健全育成上の諸問題に関する調査研究を行い、各学校の生徒指導の充実と向上に資する。
- (2) 東京都教育委員会、東京都青少年・治安対策本部、警視庁、東京都公立中学校PTA協議会等の関係諸機関と連携・協力し、健全育成の推進にかかわる活動を行う。
- (3) 生徒指導部会の幹事を組織し、中心的役割を分担する。

2 活動の具体的な内容

- (1) 調査研究（役員・幹事会が中心となって役割を分担する。）
 - ① 悉皆アンケートの実施と集計（8月～10月）
 - ② アンケート結果の分析・考察の検討（10月～11月）
 - ③ アンケート結果の分析・考察の報告（11月）
- (2) 関係諸機関との連携と協力（役員が分担して出席する）
 - ① 東京都公立中学校PTA協議会の運営への協力
 - ② 中学生の職場体験推進協議会への参加
 - ③ 自殺総合対策東京会議への参加
 - ④ 有害情報から子供を守るための対策検討委員会への参加
 - ⑤ 東京都子ども応援協議会への参加
 - ⑥ 社会を明るくする運動東京都推進委員会への参加

- ⑦ 東京都学校安全教育研究会への参加
- ⑧ 中学生の主張東京都大会への参加
- ⑨ 学校保健会への参加（理事）
- ⑩ 多摩地区公立中学校と東京家庭裁判所立川支部との連絡会への参加
- ⑪ 学校防災教育推進委員会への参加
- ⑫ 日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議への参加
- ⑬ 東京都安全・安心まちづくり協議会への参加
- ⑭ 健康づくりフォーラムへの参加
- ⑮ 少年の健全育成をめざす全都大会への参加
- ⑯ 東京都いじめ問題対策連絡協議会への参加
- ⑰ 東京都青少年問題協議会シンポジウムへの参加
- ⑱ ICT教育フォーラムへの参加
- ⑲ エイズ専門家会議への参加

3 スケジュール

- 5月10日（木）部員総会（全日中会館）
- 6月19日（火）第1回定例会
(新宿区立新宿中学校)
- 7月30日（月）役員・幹事会
- 9月14日（金）第2回定例会
(新宿区立新宿中学校)
- 11月14日（水）第3回定例会
(新宿区立新宿中学校)
役員・幹事会
(新宿区立新宿中学校)
- 11月22日（木）東京都中学校長会研究大会に
おいて調査結果の報告
- 2月18日（月）第4回定例会
(新宿区立新宿中学校)

カリキュラム・マネジメントの中核の強化

青梅市立第一中学校長 儘田 文雄

新学習指導要領のキーワード「カリキュラム・マネジメント」の中核は、学校の教育目標である。教師と生徒の意思を教育目標へと統合し、その実現に向けた学習活動の活性化を通して教育の質を高めることは、今日の経営の要諦である。

本校では、その基盤整備をリーダー層の教師を中心に4年がかりで行ってきた。それらは全て、人材育成の取組でもあった。

以下、15分を1単位時間とする「ユニット研修」の積み重ねによって構築した、教育目標に係る4つのシステムとその活用について記す。

1 教育目標の冒頭、「国際性」の定義

本校の教育目標は、次のとおりである。

国際性豊かなよりよい社会人をめざして

- 自ら学ぼう
- 感謝と思いやりの心をもとう
- 理想の実現に努めよう

4年前、本校に着任して間もない私は、教育目標の冒頭にある「国際性」の定義付けに取り組んだ。「ユニット研修」のテーマに「本校が目指す国際性」を掲げ、協議を積み重ねたのである。協議結果を踏まえて設定した「国際性」の定義は、次のとおりである。

◆【公正・公平】 互いが同じ人類の仲間であるという自覚をもち、誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平に接すること。

◆【文化交流】 我が国や郷土の伝統・文化を世界に発信できる資質や能力をもつとともに、他国の伝統・文化を理解して尊重し、互いに文化交流を行うこと。

◆【論理的思考力・表現力】 様々なものの見方や価値観があることを踏まえ、物事を多様な観点から論理的に考察し、自分の考えを根拠に基づいて説得力をもった言葉で表現すること。

これら3つの項目から成る「国際性」を育むに当たり、それぞれ関連する道徳科の内容項目に係る教科等の指導を重点的指導として位置付けて別葉を作成し、職員室に掲示した。

今後は、関連する教科等の学習を効果的に組み合わせるなど、教育課程上の工夫改善を行うことを通して、より一層効果的・効率的な指導を展開していく。

2 教育目標の実現を支える「校訓」

教育目標の第3項目「理想の実現に努めよう」は、生徒たちにとって生涯の目標にもなり得る。その実現に向け、いわば精神的な支柱となる文言を校訓として定め、「合い言葉」として生かすための検討を1年かけて行った。制定した校訓は、次のとおりである。

たゆまず あせらず おこたらず

— 目標・計画・勤勉 —

現在、この校訓は、定期考査や各種学校行事、部活動の大会等に向け、生徒の「合い言葉」となっている。

校訓の制定については、創立70周年記念事業の一環として位置付けた。制定に係る検討は、創立70周年記念事業実行委員会が担当した。制定年度の3年生は、教育目標と校訓の一字一字を木彫りした。実行委員会はそれらを木枠に収め、体育館の壁面に掲げてくれた。

今日、多くの公立中学校の体育館は、講堂を兼ねている。体育館に校歌は掲げられていても、教

育目標のある学校は少ないようである。講堂であれば、教育目標は必須であると思うが、いかがであらうか。

3 教育目標と連動した学年目標

多くの中学校では、学年目標を年度ごとに各学年が設定している。この場合、学年間の系統や教育目標との関連を図ることは極めて難しい。

本校では、平成29年度から学校が設定した学年目標を掲げ、その達成に向けた取組を進めている。目標の設定に当たっては、「ユニット研修」をおよそ1年間積み重ねた。

教育目標と連動する学年目標のうち、本稿では紙幅の関係で、教育目標の第3項目に関連する目標のみ掲載する。

〔教育目標〕理想の実現に努めよう

- ◆1年 自分の特徴を知り、よい点を伸ばそう
- ◆2年 様々な職業について知ろう
- ◆3年 自ら進路を切り拓こう

各学年の系統性を重視した学年目標を設けることで、教育目標の達成に向けた段階的な指導を計画的に行えるようになった。

なお、生徒には、各学年及び学級において、学年目標の達成に向けた学年スローガン及び学級スローガンを設定させている。スローガンはいわゆる「行動目標」となるよう指導し、生徒が自ら評価・改善することを重視している。

4 教育目標を中核とした資質・能力の育成

本校は、生徒に育む主な資質・能力を教育目標に沿って設定し、「学校のグランドデザイン」としてまとめた。設定に当たり重視したのは、次の2点ある。

第一は、学習指導要領総則の要点を全教師が理解することである。そのため、平成27年度から2年間、週ごとに発行する運営委員会だよりに関連記事を連載し、「ユニット研修」を重ねた。

第二は、資質・能力の育成を進めるシステムの

構築とその運用である。全ての教育活動の実施要項及び学習指導案に、「学校のグランドデザインとの関連」と題する項目を設け、教育目標との関連及び育成する資質・能力を明記することになっている。学校として育成する資質・能力は、生徒自身がそれらを理解し、自覚的な学習が展開される時、教育効果は更に高まる。そのため、月ごとの全校朝礼の講話で、4か月にわたりそのポイントについて解説を行った。

育成する資質・能力のうち、ここでは教育目標の第1項目に関する内容のみ掲載する。詳しくは、本校ホームページの「学校のグランドデザイン」を御覧いただきたい。

〔教育目標〕自ら学ぼう

- ア 主体的に学習に取り組む態度
- イ 自己の感情や行動を統制する力
- ウ 自らの思考の過程等を客観的に捉える力
- エ 全ての学習の基盤となる諸能力
 - (ア) 言語能力
 - (イ) 情報活用能力
 - (ウ) 問題発見・解決能力
- オ 現代的な諸課題に対応する諸能力
 - (ア) 健康・安全・食に関する力
 - (イ) 日本や他国の伝統・文化を理解し、文化交流を行う力
 - (ウ) 主権者として求められる力
 - (エ) 持続可能な社会を創る力

なお、「学校のグランドデザイン」は、「社会に開かれた教育課程」の基盤でもある。そのため、「学校要覧」及び「学校だより」に掲載するとともに、保護者会や地域懇談会の席上、専門用語を廃してできるだけ平易な言葉を用いて説明を行うようにしている。

落ち着いた学校の実現

東村山市立東村山第五中学校長 安藤 環

確かな学力は質の高い授業によって保障される。しかし、それは学校が落ち着いた状態で初めて実現できるものである。落ち着いた学校を実現して、はじめて生徒は心を磨き、身体を鍛え、学力を高めることができる。生徒のさまざまな面での成長を実現するためにも、組織的な指導体制を確立させ、教員が落ち着いて教材研究や授業に取り組むことのできる学校。そして、児童や生徒が落ち着いて授業を受けることのできる学校を実現することが何より重要であると私は考え、学校経営の柱としている。

4月に校長として着任し、まだまだ手探りの状態ではあるが、この半年間に私が実践してきたこと、心がけてきたことなどについて報告させていただきたい。

【まずは教員のチームワーク】

組織的な指導体制を確立させるとともに、教員が自信を持って主体的に職務に取り組むためには、学年や分掌を中心とした教員のチームワークが何より大切である。そのためには、まずは、職員室の雰囲気明るくなくてはならない。教員同士が生徒の前で笑い合い、信頼し合い、尊敬しあう姿を見せることは、「大人としてあるべき姿」、あるいは「人としてあるべき姿」を生徒に見せるためにとっても大切である。このような姿を見せることは生徒に、「人と人が信頼し合うことがすばらしい。」「自分も将来そんな雰囲気の中で働きたい。」と、生徒の将来に希望をともすとともに、生徒に学校生活に対する安心感をもたらすものと考えている。生徒が教師を信

頼することは落ち着いた学校への第一歩であり、基盤であると考えている。

【そのために校長として取り組んだこと】

自らも明るくそして強いリーダーシップを発揮すること。

「明るい職員室」、「居心地の良い職員室」を実現するために、私は自ら明るく話をし、明るい雰囲気づくりに努めてきた。

ご存知の通り校長には教職員の前でさまざまな話をする場面がある。職員朝礼や職員会議、あるいは全校朝礼などである。私はどんな場面でも明るい雰囲気ですすように努めている。特に、全校朝会では生徒や教職員に希望を与えるような話をするを心がけている。今までの私の拙い人生経験から「**明るい雰囲気は伝染する**」と私は思っている。

とはいっても、職員会議などでは、明るい話ばかりできるものではない。その時は当然であるが、毅然として話をする。そうすると、教職員はかえってよく聞いてくれるので、効果的になることも多い。

また、保護者の対応や防災など、学校が危機的な状況にあるときほど、明るく、そして強くリーダーシップを発揮できるように努めている。

教員が不安に思っているときこそ、校長が明るく強い姿勢を見せることが教職員の不安を解消し、教職員からの信頼を得る絶好の機会に他ならない。

私はこれからもこのような姿勢で教員のチームワークを育み、落ち着いた学校を実現していきたいと考える。

退職を迎えるにあたって、教職員に贈る言葉

あきる野市立五日市中学校長 曾我 有二

私は、来年3月で退職を迎え、37年間の教員生活を終えます。そこで、各職層の先生方に参考になればと思い、時間の合間に文章を残しています。各職層のOJTに役立てばと思います、贈る言葉としましたが、それが現在102ほどになっています。役に立つか役に立たないかは、受け取り側の自由ですが、その一部を随想として恥を書くつもりで紹介します。

○「教師冥利につきる」とは。

教師冥利につきるとは、生徒に「先生のような人間になりたい」と心の底から言わせることである。君には、その自信があるか。そのためには、授業力、人間性、人権意識など、全ての面で優れていないと生徒があこがれることはない。そうでないとバカにされる。

○優れた教師は、沢山いる。

優秀であこがれる先輩教師は沢山いる。でも、その人達の真似をただけでは、自分のものにならない。自分のものと混ぜて、新しい自分らしさを作らないと、ただのコピーだ。○「私だったらこうやるのに、こうできるのに」と思っても、できない教師もいる。

全てが自分と同じレベルの教師と思ってはいけない。人それぞれのキャパがある。自分より優れている人もいる。自分が経験して成長してきたことを惜しみなく後輩教員に教え、育てるべきである。

○生徒を褒める時、指導する時

生徒を褒める時は、時間は少々遅れてもいいから、皆の前で。指導する時は、時をずらさず別室で。

○教職員が話しかけたら、仕事の手を止めて、話を聞く副校長になって欲しい。

教職員が「副校長、ちょっと話していいですか」と言ってきた時、「ちょっと待って」とPCから目を離さず、しばらくその教職員を待たせてから「何？」という副校長にはなるな。すぐ手を止めて「何、どうしたの」と話を聞く副校長になって欲しい。それが信頼を得る。

○「どうしましょう」という副校長になるな。

何か問題があると「～なことがおこりました。どうしましょう」と校長に言ってくる副校長がいる。校長は、少しがっかりする。「～なことがおこりました。対応策としては、1～、2～などが考えられますが、いかがいたしましょうか」こういう副校長が、校長になる。

○校長は孤独。山本五十六の「男の修行」という詩は、正に「校長の修行」しかし、校長は、その先がある。詩を紹介します。

「苦しいこともあるだろう 云いたいこともあるだろう 不満なこともあるだろう 腹の立つこともあるだろう 泣きたいこともあるだろう これらをじっとこらえてゆくことが 男の修行である」

しかし、校長は、じっとこらえてばかりいられない。対応策を考えて、学校組織を動かして解決していかなければならないと思う。大変です。でもやるしかないと思います。それが校長だと思います。それがいやなら、校長にはならない方が良くと思います。

まだまだ、ありますが、いくつか職に応じたものを抜書きしました。生意気なことを書きましたが、教員生活37年間の私の「随想」とさせていただきます。幸いです。

1. 豊かな自然の残る東久留米市

東久留米市は都心から北西約24kmに位置し武蔵野台地のほぼ中央にあります。平成20年6月には、「落合川と南沢湧水群」が都内で唯一「平成の名水百選」に選ばれました。また、「関東の駅百選」に選ばれた東久留米駅の西口に設置された「富士見テラス」から見る富士山は、「関東の富士見百景」に選定され富士山の真上に夕日が落ちる様子として「ダイヤモンド富士」が眺められる場所としても有名です。

昭和30年代後半からひばりが丘団地・東久留米団地・滝山団地・久留米西団地などが次々と建設され、現在は11万6830人（平成30年）の人口を要しています。市内に中学校は7校、小学校は13校あり、各校が地域の特色を生かした教育活動を展開しています。

2 東久留米市の教育

東久留米市では、平成23年3月に策定された第4次長期総合計画に「子どもの未来と文化をはぐくむまち」の実現を掲げています。この目標を受けて東久留米市教育委員会では、児童・生徒が人間性豊かに成長することを願い、次の「四つの人間像」の育成を、東久留米市の教育の姿として位置づけています。

- 自ら学び、知を創造する人間
- 豊かな心と人間性を高めていく人間
- たくましく成長する人間
- 粘り強く行動し、実現する人間

この人間像の実現のためには、学校教育だけでなく、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、すべての市民が教育に参加することを目指しています。さらに、東久留米市立中学校長会では、小学校と合同で教育委員会との連

携を密にする定例校長会、中学校長で運営する健全育成校長会、さらに北多摩地域の中学校長の連携を図る北多摩北地区中学校長会などを通じて意見交換をし情報共有や課題解決に取り組んでいます。

3 「東久留米市教育振興計画」による基本方針

東久留米市教育委員会では平成26年8月に策定された「教育振興基本計画」（現在第2次計画策定中）の教育目標の実現のために次の四つの基本方針を掲げて取り組んでいます。

- I 人権尊重と健やかな心と体の育成
- II 確かな学力の育成
- III 信頼される学校づくり
- IV 生涯学習社会の構築

これらの基本方針を受けて市内中学校では、次のような取り組みを行っています。

- 久留米中学校 東京都スーパーアクティブ
スクール実践校
- 東中学校 ICT教育環境整備支援事業
- 西中学校 東京都道徳教育地域拠点校
事業
- 南中学校 東京都オリンピック・パラ
リンピック教育推進の実践
- 大門中学校 東久留米市研究推進校
(H29キャリア教育)
- 下里中学校 東久留米市教育課題研究
(H30不登校対策)
- 中央中学校 東久留米市研究奨励校
(授業改善)
- 全校 東久留米市立学校学習定着度調査
東久留米市小中学校授業改善研究会
東京都オリンピック・パラリンピック
推進校